

令和6年度

病虫害発生予察情報

第5号

注意報第3号

北海道病虫害防除所 令和6年(2024年)5月21日

<http://www.agri.hro.or.jp/boujoshou/>

Tel:0123(89)2080・Fax:0123(89)2082

春まき小麦のムギキモグリバエが早発・多発！ 防除適期を逸さないように注意しよう！

前年のムギキモグリバエの発生は平年より多く、秋季も高温に経過したため越冬密度は高いと推測されています。生育初期の早い加害時期では、異常分げつにより無効茎が増加し、茎芯枯れ被害では新葉が抽出しないで枯死します。出穂前の加害では出すくみ被害により有効穂数が減少し、出穂直前の加害では白穂や傷穂被害が発生します。被害として認識しやすい白穂や傷穂よりも、異常分げつや茎芯枯れなど早い時期の被害ではより大きな減収につながる一方で、被害として認識されにくいいため、必要な防除が実施されていないおそれがあります。

本年は長沼町及び比布町の春まき小麦予察ほ場において平年よりも早いムギキモグリバエ成虫の初発が確認されています。また、5月3半旬のすくい取り調査ではいずれの地点においても平年よりかなり多い捕獲が確認されています(表)。5月16日発表の2週間気温予報によると5月24日から28日の気温は平年より高いと予報されています。これらのことから、本年のムギキモグリバエの産卵及び幼虫による加害は平年より早くなり、発生量も多いものと予想されます。防除適期は産卵初期から中期で、は種時期が遅いほど、加害開始が早いほど被害が大きくなるので、本年は従来よりも早い防除開始が必要です。は種時期が遅かったほ場では特に早めの防除を心がけてください。

1. 発生地域 全道

2. 発生期 既発(早)

3. 発生量 多

4. 注意報発令の根拠

- (1) 春まき小麦予察における、ほ場すくい取り調査によるムギキモグリバエ初発期は、いずれの地点においても平年より早かった。5月3半旬における成虫捕獲頭数はいずれの地点においても平年より多い(表)。
- (2) 札幌管区气象台発表(5月16日)の2週間気温予報によると5月24日から28日の気温は平年より高いと予報されている。

5. 防除対策

- (1) 茎葉散布を2～3回実施する。
- (2) 早期被害を防ぐための防除開始は従来、4月は種で4.5～6葉期、5月上旬は種で3～6葉期、5月中旬以降は種で1.5～6葉期である。早発で今後の高温も予想されているので防除開始が遅れないよう注意する。

表. すくい取りによるムギキモグリバエ成虫の初発期と捕獲頭数

月・半旬	長沼町		比布町	
	本年	平年	本年	平年
初発期	5月9日	5月16日	5月14日	5月19日
5月1半旬	0	0.0	0	0.0
2半旬	7.5	2.5	0	0.0
3半旬	57.5	16.8	17.5	2.5
4半旬	-	25.5	-	15.9
5半旬	-	68.9	-	95.8
6半旬	-	77.6	-	201.3

注) 捕獲頭数は20回振り5日間合計